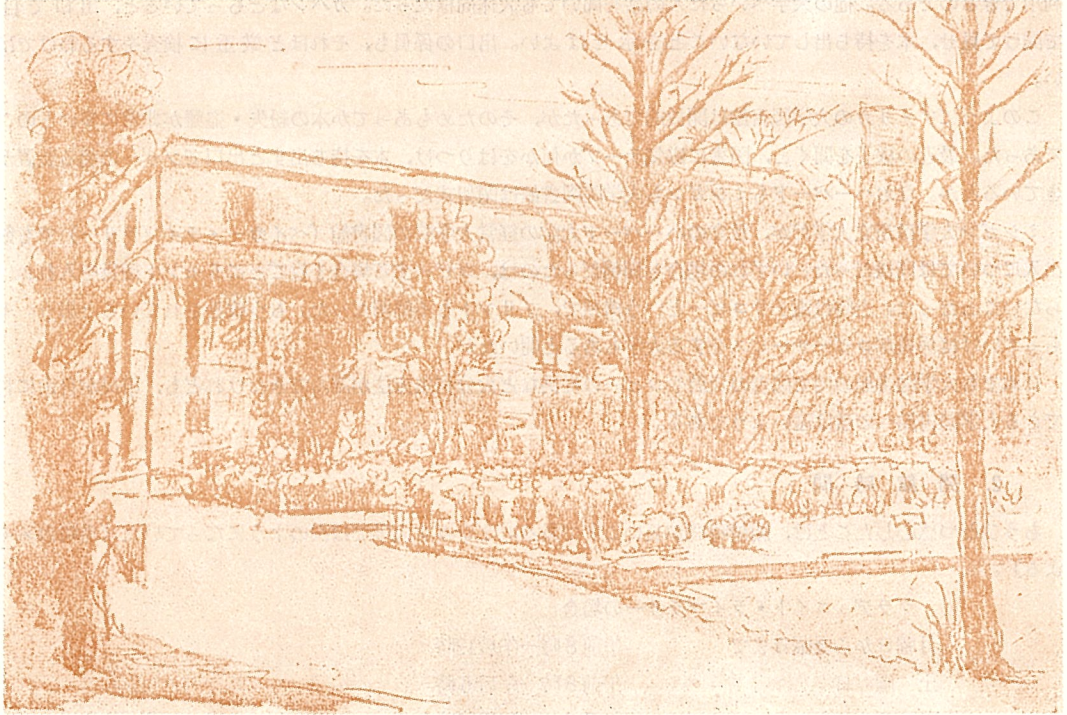


# びぶりおてか



同志社大学図書館報 №30. 1981. 10. 1

## アメリカの大学図書館

商学部長 安 岡 重 明

### 1. 市民の利用

アメリカの大学図書館を数ヵ月間利用してみて、感心したことが二つある。近頃はアメリカやヨーロッパへ旅行したり、留学することが容易になったから、私の体験など、すこしも珍しいことではないが、記憶力の悪い私が今でも覚えているのだから、よほど印象が強かったのだと思う。

そのひとつは、大学図書館への出入が自由だという点である。アメリカの大きい大学には中央図書館と大学院の専攻ごとの専門図書館や研究所所属の図書館などがある。大学全体では図書館は相当数にのぼる。ハーバード大学には25の図書館があると聞いた。

私は1972年ミシガン大学にしばらく滞在した。何か身分証明書のようなものがほしいと思い、友人の助教授に頼んで、同大学付属のアジア研究所のビジットング・スカラの証明書もらった。しかし図書館に出入してみて、それがほとんど不要なのに驚いた。館外へ借り出す場合は別だが、開架式であって館内で図書を閲覧したり、コピーを取ったり、書庫にはいたりするのは、全く自由だったのである。だから教職員や学生でなく市民であっても、図書館に自由に出入りして

### 目 次

アメリカの大学図書館 (安岡重明) …	1
書評「農村婦人問題」 …	3
実例を中心とした資料のさがし方 …	4
旅の楽しみ / …	6
世界史に関する二次文献について (下)	
東 洋 史 …	8
ピックアップ	
「ジョンソン博士の英語辞典」 …	11

利用できるのである。他の大学へいった人の話を聞いても大体同様だった。カバンなどもっていると、出口で自分で開けて見せ、本を持ち出していないことを示せばよい。出口の係員も、それほど厳重に検査をするわけではない。

このようにアメリカの大学図書館は開放的であったが、そのためもあってか本の紛失・盗難が非常に多いとのことであった。最近の様子を聞くと、図書に磁気テープか何かをはりつけ、本を持ち出すと出口でブザーの鳴る装置ができていたとか。なおハーバードもミシガンも大学院図書館は閉架式だった。

ミシガン大学は州立大学だが、私立のハーバード大学の経営大学院の図書館（ベイカー・ライブラリー）でも館の出入については同様だった。いずれの場合も面倒だったのは、コピーする場合1枚ごとに5セント硬貨を入れねばならないことだった。当時は電子リコピーという機種で、プリントも不鮮明だった。もう改善されていると思う。本をもっていけば係員がコピーサービスをする大学もあると聞いたが。

日本でも大学図書館の間で図書の貸借やコピーの提供など大分利用方法が進んできたけれども、市民が自由に利用できる大学図書館への道は遠いようである。

## 2. 開館時間

もうひとつ感心したことは、開館時間が長いことである。ミシガン大学では次のようになっていた（当時のメモによる）。

### グラデュエイト・ライブラリーの場合

月曜日から金曜日まで	午前8時—午後12時
土曜日	午前8時—午後6時
日曜日	午後1時—午後12時

### ライブラリー・オブ・ビジネス・スクールの場合

月曜日から木曜日まで	午前8時—午後11時
金曜日	午前8時—午後6時
土曜日	午前8時—午後5時
日曜日	閉館

ミシガン大学では、グラデュエイト・ライブラリーは中央図書館のような役割をもった大図書館であった。御承知のように、アメリカの大学の講義日は月曜日から金曜日までであって、土・日は休みである。土・日は教員が研究室に入るには、建物のかぎと研究室のかぎをあけて入る。しかし、図書館は別扱いであった。夜間課程はなくても、図書館の利用には最大限の便宜をはかっているのには感心した。

それではグラデュエイト・ライブラリーは年中無休かということだが、私のいた期間では、7月4日の独立記念日は休館だったと記憶する。また聞いたところによると、出入口の係員は、アルバイト学生だとのこと。

ミネソタ大学に留学した友人の話では、同大学では、試験期間には夜通し図書館の一部を開館していたということであった。

大学図書館と市民・学生との関係や大学図書館に対する考えなどのちがいがから、日本とアメリカとでは、大きい差異ができてきたのであろうから、一気に日本の大学図書館のあり方を変えることはむずかしいと思うが、勉強する機会をつねに提供しておくという考えからすれば、開館時間の長いことは望ましいことである。

本学の図書館の利用者数や貸出冊数などを見ると、利用の程度は高いと思う。利用度が高いことに伴う種々の難問題があると思うが、アメリカの大学図書館のあり方は、参考にしてよい事例だと思う。一昨年来、関係者の御尽力により定期試験期間中の土曜日は開館時間が長くなりよるこばれているようである。いっそうの御工夫を期待したい。

# 『農村婦人問題』（丸岡秀子著）三版出版にあたって

——婦人問題の源流としての意味——

ここに紹介する『日本農村婦人問題』の著者である丸岡秀子氏が勤務していた、全国農業協同組合中央会は戦前には産業組合中央会とっていた。その勤務内容である婦人会の組織拡充や、啓蒙のための講習会や、調査活動のために全国の農村を歩いたその10年間の成果をまとめたものが本書である。

著者が農村を遍歴した昭和10年代は、同4年の金融恐慌に端を発した世界的な大恐慌の渦中にあった。野放しの弱肉強食の資本主義の原則によって農村へのしわよせは猛烈なものであった。当時の農村の状況については、猪俣津南雄氏の農村踏査報告『窮乏の農村』（S. 9. 9刊、改造社、『昭和前期農政経済名著集』第1巻、S. 53. 農文協、所収・611: S11）にくわしい。恐慌でまゆの値下り、農村の生活をささえていた女工の賃下げや大量失業、米価の下落等で借金の上に借金を重ねても肥料も買えず、米を作りながら米が食べられない。青田どころか黒田（植付のしてない田圃）白田（雪におおわれている田圃）まで売らねばならない、いわゆる「豊作飢饉」といわれた深刻な状況にあった。その後9年には北海道・東北を初めとする全国的凶作にみまわれている。平時でも高率小作料に責め苦しんでいる農村の状況は苛烈の度を加えていった。

身売り、出稼、欠食児童、死産、乳幼児死亡等々痛ましく悲惨な農民生活を見すえ、とりわけ封建的差別と隷属により、そのしわよせの苛酷な担い手としての農村婦人の困苦のうめきを「全女性の名において生ける現実の課題」として世に訴えた。かって細井和喜蔵氏の『女工哀史』（T. 14. 7刊、改造社、『細井和喜蔵全集』、S. 31. 三一書房刊、所収、旧813. 7: H24）が婦人問題の源流をつくったが、それを一步進めてその母体となる農村婦人の問題を一般婦人問題の分野に押し出す役割を果たした点で、婦人問題の源流として、その古典と評されるゆえんであろう。

農村婦人問題を①農業労働者、②都市労働婦人の給源、③主婦並びに母性の3点からとりあげ、主として主婦・母性としての農村婦人が広汎な労働と家事負担の中で苛酷なまでの労働に従事している事実を具体的資料にもとづいて追究している。すなわち、農村婦人は一日10時間～15、6時間の過激な農作業に加えて、炊事・洗濯・縫物等家事一切、苦しい家計のやりくりを一身にひき受け睡眠さえぜいたくとされている。特に中小農や貧農層の母性の場合には、健康なる未来の世代を生むべき条件に極めて乏しく、死産・流産、たとえ無事に生みおとしたとしても幼なくして死亡していく。死産・流産、栄養不良、欠食に泣く児童、可愛い子女の身売り、出稼ぎ等、農村母性のかぎりない悲しみと地位の低さの実態を、自分自身全国を歩いて調査し、その婦人達の生の言葉と綿密な数字で実証している。

そして「農村母性生活の地位の低さは、全く農村の機構的（構造的）な矛盾に深く胚胎している」（カッコ内筆者）と述べ、社会的・経済的な体制の矛盾の解決への視点の重要性を指摘している。さらに都市労働婦人、都市生活者の主婦等「日本の婦人の母性の惨苦は農村を母胎とし農村婦人の地位に究極の制約を持つ」と主張している。

戦争前夜の言論統制のきびしい状況のもとで、注意深い表現と調査事実を生そのまま提出することにより、昭和12年3月（高陽書院）出版にこぎつけ公表している。ちなみに初版が公表されて4カ月後の7月には日中戦争が勃発し、まもなく太平洋戦争にむけて、国家総動員法が施行されている。

二版は「戦時、戦後の農村婦人」の項を加え、書名に「新しき出発」という副題をつけて昭和23年11月（八雲書店）、戦後人々が荒廃と焦土の中から立ちあがろうとしているその時に出版された。

また今日、国際婦人年を契機に婦人の地位平等が、母性とのかわり方で問題とされ、労基法の改正も日程にのぼっているこの時期に三版（S55. 5. ドメス出版、611. 921: M3）が出版されたことの意味は大きい。

なお著者が農村婦人問題を究めようと思うに至った過程・生いたちは、自伝小説『ひとすじの道』3分冊（S. 47～52. 偕成社）『田村俊子とわたし』（S48. 4. 中央公論社）を参照されたい。婦人問題全般にわたっては、『婦人思想形成史ノート（上）』（S. 50. 12. ドメス出版、367. 21: M6）、今年完結をみた『日本婦人問題資料集成』全10巻、共編（S. 51～56）、ドメス出版、367. 21: N7）は、この種の研究をしようとするものにとって、貴重な文献が紹介収録されている。

（岡 和子）

## 実例を中心とした

# 資料のさがし方 —20—

今回は1981年7月までに受付けた質問の中から翻訳図書、原書のさがし方など10例をピックアップしました。

### 〔質問例 1〕

Max Müller 著 *Erfahrung und Geschichte* (Karl Alber, 1971) と Leslie and Joyce Field 編 *Bernard Malamud and the critics* (New York Univ. Press, 1970) を所蔵している図書館はありませんか。

### 〈回答〉

洋書の他館での所蔵を調べる資料としては「新収洋書総合目録」(029.11;K4-3 書庫、但し最新版のみ参考室)があります。この目録は、国立国会図書館および支部図書館(34館)、大学図書館(16館)、公共図書館(2館)の計52館に収蔵された洋書の図書カードを著者名のABC順に編集したもので、同志社大学図書館では第1巻(1958年度収蔵の洋書を収録)より所蔵しています。この質問の場合、著者名、出版年がわかっていますので該当する年度の「新収洋書総合目録」で調べて下さい。「*Erfahrung und Geschichte*」は東北大学、広島大学で「*Bernard Malamud and the critics*」は北海道大学、東北大学、名古屋大学、広島大学、九州大学が所蔵しています。「新収洋書総合目録」は著者名がわからないと利用出来ません。著者名のわからない図書をさがす場合は分類別に配列された早稲田大学、東京学芸大学、関西大学などの蔵書目録、書名索引のついている青山学院大学、大阪府立図書館などの蔵書目録、「Books in print の Subject guide」などで調べて下さい。

### 〔質問例 2〕

William Pirsig 著 *The Zen and the art of motorcycle maintenance* の日本語訳本は出版されているか。原著は1974年に出版されています。

### 〈回答〉

翻訳書が出版されているかどうかを調べる資料に「Index translationum」(027.34;I 書庫、但し最新版は参考室)があります。この目録は各国で年間に翻訳出版された図書の書誌目録で巻末に原著の著者名索引がついています。原著が1974年に出版されていますので1974年以後の Index translationum を調べて下さい。著者索引で調べて行くと William Pirsig は見つかりませんが Robert M. Pirsig という人が見つかり、その人の著作が日本語に訳されていましたので名前は少しちがっていますが念のために該当ページをみてみました。そこには Pirsig, Robert M. 「Musuko to watashi to ôtobai/Saotome Tadashi/Tokyo:Shinchôsha, 1976. Eng. title:Zen and the art of motorcycle maintenance」という記載がありました。この記述から「The Zen and the art of motorcycle maintenance」は1976年に新潮社より「息子と私とオートバイ」という書名で出版されています。「Index translationum」の他に「出版年鑑」や「日本書籍総目録」でも著者索引を利用してさがす事が出来ますが、原書名が書いてありませんので日本語訳本書名が原書名と著しく異っている場合は、はっきりと確認する事は出来ません。

### 〔質問例 3〕

イギリスの作家ローズマリ・サトクリフの「ともしびをかかげて」という本の原書を購入したいので原書名と出版社が知りたい。

### 〈回答〉

〔質問2〕とは反対の事を知りたい例です。この場合でも「Index translationum」が利用出来ます。まずローズマリ・サトクリフの原つづりを知らせて下さい。外国人名の原つづりを調べるには人名事典、文学事典も利用出来ますが、この質問の場合は日本語訳本が出版されていますので、出版年がわかれば調査に便利であるため「出版年鑑」(025.1;S)を利用して調べました。「出版年鑑」では著者名と書名の両方からさがすことが出来ます。著訳編者人名索引でさがすと1970年版にサトクリフ(Sutcliffe, Rosemary)が見つかります。「ともしびをかかげて」は岩波書店より1969年に発行されています。「日本書籍総目録」(025.1;N3 参考室)でも「ともしびをかかげて」

の出版年はわかりますがサトクリフの原つづりはわかりません。日本での出版年がわかったので「Index translationum」の1969年版を見て下さい。Sutcliff, Rosemary でさがすと日本の項に「Tomoshihi o kakagete」がのっており English title は「The Lantern bearers」となっています。これで原書名がわかりましたので、この図書が現在でも販売されているかどうかを「Books in print」（参考室）で調べて下さい。「Books in print」は現在販売されている図書の目録です。著者名、書名のどちらからでもさがせます。「The Lantern bearers」はこの目録にのっていますので書店に注文すれば手に入ります。出版社は Oxford Univ. Press で New Oxford Library series の一冊として1979年に出版されています。

質問2～3で使用した「Index translationum」はUNESCO（ユネスコ）が出版している翻訳出版目録で、各国別、10主題の下に原著の著者名のABC順に配列されており、翻訳書名、翻訳者名、出版社、原著の使用語、原著書名が付記されています。巻末には原著の著者名索引がついています。「Index translationum」を利用すれば、日本人の著作が外国語に翻訳されて出版されたかどうか、外国人の著作が日本語で出版されたかどうかを調べられます。例えば安部公房の「砂の女」がドイツ語に翻訳されて出版されたかどうかという事も調べられます。

〔質問例 4〕

日本国憲法の英訳文はありませんか。

<回答>

メイン・カウンター前にある目録コーナーの新分類目録で憲法の分類のところをさがして下さい。日本の憲法は323.1です。新分類目録でさがすと323.14;T5に「日本国憲法制定の過程 I：原文と翻訳」という図書が見つかりました。この図書の439ページ以降に日本国憲法の英訳文が載っています。

〔質問例 5〕

中国の憲法が見たい。

<回答>

質問例4の場合と同様に新分類目録で中国の憲法の分類323.22;K2のところを見て下さい。新分類目録でさがすと「プロレタリア階級独裁のために—中国新憲法の性格と任務—」（323.22;K2）が見つかります。この図書の191ページ以降に“中華人民共和国憲法”がのっています。但しこの憲法は1975年1月に採択されたもので現行憲法ではありません。現行憲法は1978年3月に採択されたもので、参考室にある「世界諸国の憲法集」（323;S3）に収録されています。この憲法集には中国の他にドイツ（東、西）ソビエト、ポーランド、アメリカ、イタリア、イギリス、日本、フランスの憲法が収録されています。その他「中国総覧 1980年版」（059.22;C6 参考室）にも収録されています。

〔質問例 6〕

雑誌「評言と構想」に掲載された栗坪良樹著の一連の“横光利一論（1975～1980）”を読みたいのですが。

<回答>

同志社には「評言と構想」を所蔵していませんので他館の所蔵を調べて下さい。雑誌の所蔵館を調べるには、参考室で027.5に分類されている雑誌新聞目録でさがして下さい。これらの目録で調べると京都近辺の図書館では所蔵している所は見当りませんが国立国会図書館で所蔵しているのがわかります。必要な論文のコピーを取り寄せる事が出来ますのでメイン・カウンターで文献複写を申し込んで下さい。

〔質問例 7〕

キリスト教関係の欧文雑誌に“Hashimoto Kagami”という人名を論題にした論文があったが、この人名は漢字ではどう書くのか。

<回答>

各種の人名辞典、キリスト教関係の事典などで調べてみましたが Hashimoto Kagami という人名は見当りませんでした。それで次にキリスト教関係の著作の中に Hashimoto Kagami という名前が出てこないか調べてみると、「日本プロテスタント教史」（土肥昭夫著 197.1;D2 開架）の386ページに“同志社でも大塚節治（1887～1977）、魚木忠一（1892～1954）村上俊（1911～1947）が「基督教研究」などに弁証法神学を紹介した。同志社にはいずれの神学的立場にも傾倒することなく、自己の立場を確立しようとする学問的伝統があり、有賀鉄太郎（1899～1977）などはその典型であるが、芦田慶治（1867～1936）は晩年にバルト神学に感銘をうけその研究に没頭し、グループをつくってその著作の翻訳などを行ない、松尾相、橋本鑑、原田信夫といった関西の研究者を育成した……”

とあります。これらの事から推測して Hashimoto Kagami の漢字名は“橋本鑑”だと思います。

〔質問例 8〕

ボリス・ヴィアンの小説「墓に唾をかけろ」はありませんか。

<回答>

著者名も書名もわかっているので比較的たやすくさがせる質問です。著者名の原つづりがわからないとのことですので、とりあえず書名目録でさがしました。「墓に唾をかけろ」は Hakani tsuba o kakero で配列されます。書名目録では見当りませんでしたので、今度は著者目録でさがしました。著者名の原つづりを知るには人名事典、文学事典、翻訳文学索引類などで調べて下さい。ボリス・ヴィアンは「世界幻想作家事典」(903.3;S8 参考室)で原つづりがわかりました。Boris Vian です。原つづりがわかったので著者目録で Vian からさがして下さい。新著者目録で「ボリス・ヴィアン全集」が見つかり、その第10巻に「墓に唾をかけろ」が収録されているのがわかります。請求記号は958;V2で開架図書室にあります。

〔質問例 9〕

昭和初年代に行われた“生活綴方運動”について知りたい。出来ればその当時の資料や児童の作文が見たい。

<回答>

昭和初年代に刊行された“生活綴方運動”に関する資料は図書館では所蔵していませんでした。戦後になって刊行された資料では次のものを図書館で所蔵しています。「生活綴方成立史研究」(375.86;N2-2 書庫)、「講座生活綴方」(375.86;K2 書庫)、「生活綴方研究」(375.86;K7 書庫)、「綴方教室」(351.6;O 書庫)。雑誌では「綴方生活」(P370.1;T10)を所蔵しています。この雑誌は1929~1937年の間に創刊号から9巻9号まで発行されました。図書館では複製版で所蔵しています。複製版の第15巻は小砂丘忠義著「私の綴方生活」(1938)の複製版になっており、この本の441~666ページに全国児童文選があります。又参考室にある「民間教育史研究事典」(372.1;M10)には生活綴方に関係のある多くの項目と研究文献資料がのっていますのでこれを利用して読みたい資料をさがして下さい。

〔質問例 10〕

斎藤茂著「井口喜源治」(研成義塾教友会 1953年)は同志社にありますか。又井口喜源治に関する資料にはどんなものがありますか。

<回答>

著者目録で「斎藤茂, 井口喜源治」からさがして下さい。著者目録にはその人の著作だけでなく、その人に関して書かれた伝記書, 研究書も一緒に配列されています。斎藤茂著「井口喜源治」は所蔵していませんでしたが「松本平におけるキリスト教—井口喜源治と研成義塾—」(同志社大学人文科学研究所編 同朋舎 1979)が見つかりました。この図書の巻末に文献目録が9ページにわたって載っていますのでこれを利用して必要な資料をさがして下さい。請求記号は197.195;Dです。又「井口喜源治と研成義塾」(南安曇教育会 1981)という資料もあります。請求記号は197.195;Iです。いずれも書庫にありますのでメイン・カウンターで請求して下さい。

---

## 旅 の 楽 し み !



オーストラリアへ旅行をしないかと誘いを受けて、一も二もなくとびついた。かねがね珍しいものと、美味しいものを食べたいと思いつけていた願いがかなえられるということと、日本では絶対に見られない南十字星をみておこうと思ったからである。

ジェット機に乗るのはむろん生まれてはじめて、高所恐怖症だけに、さすがに離陸の瞬間はこわかった。

酔うかもしれないという不安があったので「エーイ、飛行機に酔う前に、お酒に酔ってやろう」と覚悟したが、ふわっと身体が浮いたように感じたら、機は高く高く飛んでいた。なんだこれなら“酔って”怖さを紛らわすほどのことではなかったとヤレヤレ。

出発前、私のビール好きを知っているI氏より、外国のビールは国によってアルコールの度数が違うから、特に旅の往復に立ち寄る香港のビールはものすごくきつく、ざっと清酒並みだから、調子に乗っていつものようにグイグイ

飲むとひどい目にあうぞと何度も釘をさされた。

そうなると是が非でも香港のビールに挑戦してみようと、むくむくとファイトが湧いてくる。

香港まで約3時間、ワイン、ビールの飲み放題。

かといって、そんなに飲んだわけでもなく、せいぜい缶ビール2本程度。

香港はやたら暑かった。むしむしするような湿気が身体にベタベタとまといつき、とても見物どころではない。早く涼しいところへ避難して冷えたビールが飲みたいと、思うことはそれだけ。

タイガー・バーム公園、ビクトリアピーク、慕情の丘など一通りさっと見物を終えてツアーの一行19人は、軽く夕食をとるため市内のレストランへ入った。ラーメン、あわびのおかゆ、ビーフサンドイッチ、それぞれ好みのものを注文。さあ私は待望のビールを飲むぞ、と胸がワクワク。

“One Beer”と、ハムサラダをオーダー。やがて目の前に水滴をしたたらせた冷たいビール。だがコップにあげたら1回で全部入ってしまうほどに小さいビンだった。

I氏の忠告が頭の中に甦ってくる。“一気に飲むな、ぶっ倒れるぞ”しかし、この暑さ、この喉の渇き。ビールなんてチビチビ飲めますかってんで、グイーとおおった。冷えた液体が喉を通過して急流下りのように胃の中へと流れ落ちてゆく。

“あーこれが香港のビール”なんだと喜んだ時にはビンは空っぽ。さあ、まわってくるかな。若し酔ったらちゃんと連れて行ってネと、友達に頼んでひたすら酔いを待っていたが、10分、20分、30分経っても一向に変化のないままニュージーランドへ出発のため機上の人となった。

飛行機で眠れるだろうかと心配していたら隣に座った人が同じツアーの独身青年で、またものすごいビール好きですぐに意気投合した。彼はさっそくアシスタントパーサーに“この女性はビールが大好きなので、どんどん飲ませてください”と伝えてくれたものだから、まあサービスのいいこと。ひげをはやしたパーサーがにっこり笑いながらどんどんビールを運んできた。おまけに“Don't open Please.”なんて怪しげな英語でお土産用にちゃっかり2缶もらった。(このビールは、ニュージーランドのライオンビール2缶と共に、ばっちりトランクの隅に陣取って無事我が家まで到着した。) 飲んだ勢いでいつの間にか眠りにおちていったとみえて、目覚めたら朝食になっていた。昨夜のパーサーが“Coffee or tea?”といいながらまわってきて、私の側にやってくると“Beer?”とにっこり笑って聞くので、さすがに“No thank you, milk please”なんて、つい心にもないものを注文してしまった。今思い返せば少し残念。旅の恥はかきすてなのに。

シドニーのウォーターフロントというシーフードレストランでの夕食は素晴らしい。

正直いって、今回の旅行は、日本では真夏なのに、向うへ行ったら“生がき”が食べられると聞いて決めたようなものなので、それだけが最終目的といってもいい過ぎでない。

レストランの中は、かなり暗く、テーブルの上の照明が真白なクロスを淡く照らし、入口に据え付けられた大きな水槽には巨大とも見える伊勢えびがうようよと泳いでいた。

1ダースは多すぎるだろうということで、取敢えず半ダースの生がきを注文する。待っている間に選びぬかれたワインがグラスに注がれる。いい音といい香りがする。カンパイッ! ツアー仲間7人は、かきをまだ味わっていないのにもう満足したような顔でワインを口にしている。おいしい! なんておいしいんだろう。ビールもおいしいが、このムードいっぱい異国のレストランで飲むワインの一口がこんなにおいしいとは夢にも思わなかった。

私の好きな開高健ならば、どうこの味を表現するだろう。悲しいかな、文才のない私は、ただおいしいとしかいえない。

グラスはすぐ空になってしまった。タイミングよく運ばれてきた生がきは、小振りながら、なまめかしいような光沢をたたえて氷の上に並んでいた。

期待に胸が高鳴る。はじめは何もつけないでそのまま口へ運ぶ。クーンと磯の香りがするが日本のかきのようなきつい匂いはしない。口に入れたかきは、そのまま舌の上をつるんと滑ってゆく。二つ目は、ソースをほんの少しつける。うーん、抜群。皆、何もいわない。ただ黙々と、いや必死で食べている。ワインもストップ。私も、ただひたすら6コのかきを平らげてしまった。一皿目は夢中で、味わっている暇がなかったので、二皿目をたのみ、今度は少し落着いて、一つ、一つ、心ゆくまで味わって食べた。

次が伊勢えび。小さいものを焼いてもらうように頼んだのに、出てきたのはなんと40cmは優にある大きさ。再び、これに取り組む。ワイン、えび、ワイン、えび。いつの間にかワインはみんな4本も空いていた。

これが食べたさに、はるばるオーストラリアへやってきたと思うと、満足と嬉しさに涙がでてきた。レストランを出た我々を、オペラハウスの明りが優しくつつんでいた。

(M. I.)

## 世界史に関する二次文献について (下)

### 東 洋 史

前号の世界史一般と西洋史の文献に引き続き、東洋史に関する資料を紹介します。同じく本館に所蔵するもので、一般的・包括的な文献案内、解題書、目録、辞典等をとりあげました。

請求記号についている㊦は雑誌参考図書室図書、㊧は新分類図書、㊨は旧分類図書を表します。

#### 〔4〕 東洋史全般

##### 1. 東洋史入門

西嶋定生編 有斐閣 昭42 (1967). 263p.

(㊦220;N)

アジア史の全体像を把握するという見地より書かれたもので、東洋史の対象と方法、東アジア世界の形成と展開、内陸アジア世界の推移、西アジア世界の形成と展開、南アジア世界の形成と展開、近・現代のアジア、の6章に分けて解説。巻末に参考文献、50音順索引を付す。

##### 2. 大学ゼミナール東洋史

佐伯富等編 法律文化社 昭45 (1970). 316p.

(㊦220;D)

大学生および東洋史専攻者の入門書として編集。総論のほか、各論のなかを「問題提起」「問題の考察」「参考文献」「史料」に4大別し、各論の末尾に「現代史の諸問題」を地域別に独立して記述。参考文献は羅列形式でなく、どの文献からどの様に読んで行くかを指示してある。

##### 3. 東洋史料集成

平凡社 昭31 (1956). 556p. (㊦220;T 6)

「世界歴史事典」別巻「史料集・東洋」を単行書として発行したもの。一般書、考古学、朝鮮、中国、東南アジア、インド、中央アジア、西アジアの8篇に区分し、研究状況を述べ、文献を解説。巻末に漢籍と人名索引がある。

##### 4. アジア歴史事典

平凡社 昭34—37 (1959—62). 10冊 (㊦220;A)

中国史、東南アジア史、西南アジア史、東西交渉史、アフリカ関係事項もカバーした標準的な事典。各項目の末尾に重要な参考文献をあげている。

##### 5. 東洋歴史大辞典

平凡社 昭12—14 (1937—39). 9冊

(㊦220;T 7)

##### 6. 新編東洋史辞典

京大東洋史辞典編纂会編 東京創元社 昭55 (1980).

1138p. (㊦220;S 6)

実用に便利な中辞典。1978年まで約6000項目を収載し、項目の後に重要な参考文献をあげている。

##### 7. 東洋学文献類目

京都大学人文科学研究所 昭10— (1935—). [年刊]

(㊦028.12;K)

昭和9—35年度は「東洋史研究文献類目」昭和36—37年度は「東洋学研究文献類目」として刊行。収録年度の日付のある雑誌・論集所載の論文と単行本とをそれぞれ分類・配列し、巻末に著者索引。東洋学研究に関する和漢洋の文献を網羅的に収集し、総合目録として重要。これ以前の総合目録としては、明治初年から昭和6年までの文献を収集した「邦文歴史学関係諸雑誌東洋史論文要目」(大塚史学会編昭和7年)があるが本館には所蔵していない。

##### 8. 日本における東洋史論文目録

東洋史研究論文目録編集委員会編 日本学術会議

昭39—42 (1964—67). 4冊 (㊦028.22;T)

ほぼ1880年以降1962年までに刊行された雑誌190種、紀要類270点の中から、東洋史とアジア研究に関する論文等をえらび、分類編集した目録。第4冊は著者索引。

##### 9. 東洋学論集内容総覧

国書刊行会 昭54 (1979). 184, 28p. (㊦028.12;T)

明治初年より昭和53年までに刊行された日本文(一部欧文を含む)の論集(複数の執筆者よりなる単行書)



を50音順に配列。巻末に50音順執筆著者索引を付す。

#### 10. 東洋学関係目録集第一

川越泰博編 図書刊行会 昭54(1979). 327p.

(◎028.22;K)

第1編 東洋学関係雑誌目次索引類集目録(昭和54年6月までに発表された東洋学関係の個々の雑誌に関する総目次総索引) 第2編 東洋史研究叢刊細目次類輯(京都大学東洋史研究叢刊各冊の総目次) 第3編 中国関係辞典簡目(明治初年以降中国・日本の発兌に係る中国関係の辞典・事典の主要なもの) 第4編 中国正史志書研究文献目録(明治初年から昭和54年5月までに刊行された日・中・朝文の中国正史の志・書に関する単行本,逐刊物所載の文献) 第5編 「青丘学叢」総目次,筆者別索引(第1号—30号までの全号の巻別目録ならびに著者別索引)より成る。

#### 11. 東洋学著作目録類総覧

川越泰博編 沖積社 昭55(1980). 109p.

(◎028.22;K-2)

「明治以降,昭和55年1月までの東洋学のすべての諸分野の研究者の著作目録,著作年表がいつ,どこに,どの様な形で発表されているか」を示したもの。

#### 12. 東洋学文献センター叢刊 影印版

汲古書院 昭54—(1979—).〔不定期〕

東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センターが蒐集,所蔵する資料を整理刊行しているもので,東洋学の様々な分野の研究に必須の資料集。

### 〔5〕 各主題別

#### 13. 中国研究文献案内

市古宙三 J. K. フェアバンク著 東京大学出版会 昭49(1974). 199p. (◎028.222;I)

J. K. Fairbank の“Suggested Reading”(中国研究の英語文献)に日本語の研究文献をつけ加えて出来たもの。研究文献のほか一般向けの啓蒙書,通俗書も含む。6章に分ち1—4章は古代より近代に至る中国の種々の面に関する主要な研究や最近の業績を掲げ,5—6章で人民共和国とアメリカの中国政策に関するものを集めている。巻末に著者索引。

#### 14. 中国正史総目録

図書刊行会 昭52(1977). 484p. (◎028.222;K5)

中国正史二十五史に,明史稿,清史稿,清史の三史を加えた二十八史の細目内容を収録したもの。

#### 15. 漢代研究文献目録 一邦文篇一

早苗良雄編 朋友書店 昭52(1977). 177p.

(◎027.222;S3)

明治初年から1975年までの漢代における中国と,その周辺の国々に関する日本人の研究業績を収録分類。

#### 16. 唐代史研究文献類目

中谷英雄編 和歌山高等学校学校図書館研究会

昭31(1956). 82, 13p. (謄写) (◎016.922;N)

明治以降(中国では民国)昭和31年3月までに発行された日本と中国の唐代史関係図書と論文の目録。単行書,論文に区別せず題名により配列,通し番号で1694点ある。巻末に著者名索引。

#### 17. 宋代研究文献目録

宋史提要編纂協力委員会編 宋代史総合研究班

昭32(1957.) 246p. (◎016.922;S)

五代および宋代の中国と,その周辺諸国に関する明治初年から昭和30年までの日本人の研究業績を分類収録。論文掲載雑誌一覧表,著者索引のほか,英文目次もある。

#### 18. 宋代研究文献提要

宋史提要編纂協力委員会編 東洋文庫 昭36(1961).

842p. (◎016.922;S2)

前項およびその補篇(昭34刊 所蔵なし)に収録された論文,単行本についての提要。一般史,社会史,考古学等16項目に分類してある。

#### 19. 明代史研究文献目録

山根幸夫編 東洋文庫明代史研究室 昭35(1960).

258p. (謄写) (◎016.922;Y)

明代における中国とその周辺の国々に関する日本人(明治以降1960年まで) 中国人(1900以降1960年まで)の研究業績を分類収録。著者索引のほか,明代著名人の索引がついている。

#### 20. 東洋文庫所蔵 近代中国関係図書分類目録 日本文

東洋文庫近代中国研究委員会編 東洋文庫

昭48(1973). 2冊 (◎025.22;T3)

19世紀中頃より今日に至るまでの図書を日本十進分類法にしたがって分類したもの。別冊の書名索引および著者名索引がある。

#### 21. 近代中国関係文献目録 1945—1978

近代中国関係文献目録刊行委員会編 中央公論美術出版 昭55(1980). 640p. (◎028.222;K8)

1945年8月から1978年3月までの間に日本文で発表

された近代中国（1839年のアヘン戦争以後今日まで）に関する論文の著者別目録。学者，論文にかぎらず，一般書や時評，雑感なども採録してある。

## 22. 中国思想・宗教・文化関係論文目録

中国思想宗教史研究会編 国書刊行会 昭51（1976）.  
639p. (028.122;C)

中国を中心とする歴代の思想・宗教・文化に関する研究業績のうち，明治初年より昭和48年にわたる雑誌・論文集などに邦文をもって掲載されたものを分類収録。巻末に50音順の著者名索引。

## 23. 中国文化関係文献目録

アジア・アフリカ総合研究組織編 アジア経済研究所 昭42（1968）. (028.222;A)

第二次大戦終了時から昭和40年3月末日に至る期間において，わが国の研究者あるいは研究機関により発表された中国人民共和国の文化（歴史，思想，文学）に関する主要な著書，論文，調査報告類を収録し，その中の特定のものについて解題を付したものの。

## 24. 中国関係図書目録（和文，1957—1970）

近代中国研究委員会編 東洋文庫 昭46（1971）.  
189p. (025.22;T3-3)

“Revue Bibliographique de Sinologie”編集部  
に3カ月毎に送付した中国研究書のリストを集めたもの。全体は総記，哲学，思想，宗教，民俗，歴史，伝記，地理，政治，法律，経済，社会，科学，芸術，語学，文学に分類。著者，書名索引あり。

## 25. 蒙古研究文献目録 1900—1950（東洋史研究文献 類目 別編第1）

京都大学人文科学研究所 昭28（1953）. 46p.  
(016.922;K)

1900—1950の半世紀間の日本人による蒙古研究書のリスト。著者名あるいは編者名のABC順により配列してある。

## 26. 朝鮮研究文献誌 明治・大正編

桜井義之著 竜溪書舎 昭54（1979）. 637p.  
(025.21;S)

「明治年間朝鮮研究文献誌」（京城 書物同好会 1941），「大正年間朝鮮関係文献解説」（雑誌「朝鮮行政」連載（1940. 4～1941. 6））を合本複製したものの。

## 27. 朝鮮関係文献資料総目録 1—2

友邦協会 昭42（1967）. 昭47（1972）.

(025.21;C2)

財団法人友邦協会が所蔵する資料で，日・朝・欧文の単行書，雑誌，新聞のほか，官庁等の刊行物，録音テープ，原稿，覚書にいたるまで幅広く収録。分類は日本十進分類法により，編著者名索引および書名索引がある。

## 28. 朝鮮研究文献目録 1868—1945

末広保和編 汲古書院 昭55（1980）. 2冊

(028.22;T2-1a) <東洋学文献センター叢刊 第5—第6巻>

## 29. 東南アジア関係資料総合目録

アジア経済研究所 昭39（1964）. (028.223;A)

我国諸機関に所蔵する社会科学を中心とした東南アジア関係の外国文の総合目録。第1巻 一般および東南アジア一般 第2巻 インド（I）社会科学篇 第3巻 インド（II）人文自然科学篇 第4巻 その他のアジア諸国に分れ，第5巻が索引になっている。

## 30. 日中・日朝関係研究文献目録

石井正敏 川越泰博著 国書刊行会 昭51（1976）.  
192p. (028.21;I)

明治初年以來，1972年までの間に日本語で発表された日中・日朝両国の政治・経済・文化等の諸関係を取り扱った研究に関する文献目録。発表年次順に著者別50音順，著作類，各種研究誌所載論文となっている。

## 31. 中国・朝鮮関係所蔵雑誌目録

一橋大学経済研究所 昭41（1966）. (027.5;H-2)

一橋大学経済研究所が昭和40年現在で所蔵する中国・朝鮮関係の雑誌（含新聞）のリマト。各項の中は中国文・欧文・日本文・朝鮮文に分け，雑誌名のABC順に配列してある。



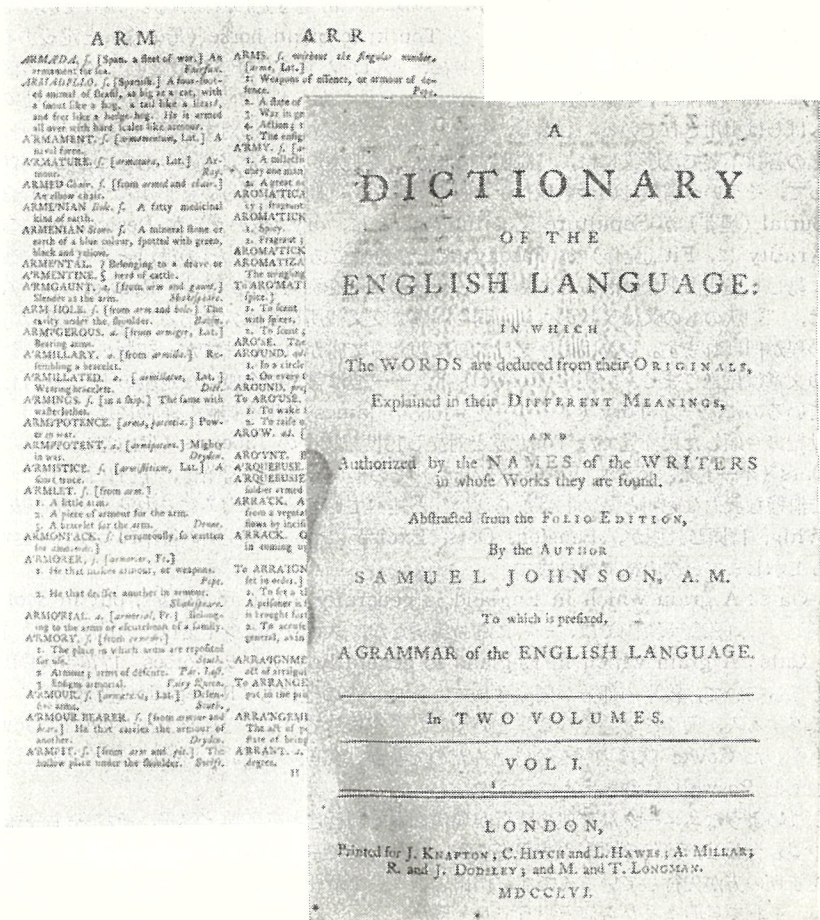
# ジョンソン博士の英語辞典

今回は Dr. Johnson (Johnson, Samuel, 1709-84) の A Dictionary of the English Language (通称 Johnson's Dictionary ⑩(貴) 894.3; J-3) について述べてみましょう。イギリスにはもう一人 Johnson (Johnson, Samuel, 1649-1703) という神学者がおり、その人と区別するため、文豪でこれから紹介する辞典を著わした方の Johnson は、普通 Dr. Johnson と呼ばれています。この Dr. Johnson について何程かを語ろうとすると、切っても切れぬ関係にあるのが Dr. Johnson の伝記を著わした Boswell (Boswell, James, 1740-95) です。この人は当時23才のスコットランドの弁護士で、54才であった Dr. Johnson と1763年に初めて出会い1784年に博士が没するまで、博士を

中心とするクラブの一員となったり、又旅行をともにしたりして博士の言行を詳しく記録し、それをもとに彼の伝記を著わしましたが、この伝記中の辞書にまつわる記述を中心に、このユニークな辞典にふれてみましょう。それから、本館の所蔵する Johnson's Dictionary は残念ながら1755年刊行の初版本ではなく、1756年に初版本から著者が抜粋して刊行した2巻ものの辞書であることをおことわりしておきます。(初版本は、複製版を所蔵しています。

⑩833; D11)

Johnson は、Lichfield (Staffordshire) という田舎の本屋の子として生まれ貧困の中を Oxford 大学に学び1737年28才でロンドンに出ますが、直前の1735年には20余り年上の未亡人と結婚しています。ロンドンに出た Johnson は貧しさに悩まされながら、苦しい文筆業を続けます。この間の彼の著作には、詩・劇などがありますが、1747年に辞典の刊行を意図し、その計画を "The Plan of a Dictionary of the English Language" ⑩(貴) 801.3; J 2) によって公にし、時の大臣を務めていた Chesterfield 伯の援助を求めましたが実現しないままに着手します。彼自身は持病のるいれきに堪え、そのうえ、完成途上の1752年には最愛の妻を失うという悲劇に見舞われています。それだけに1755年独力で完成させた時は、その喜びもひとしおでしたが Chesterfield 伯が辞典の完成を聞きおよび、慌てて Johnson に手紙を送る一方、定期刊行物 "The World" に彼の功績を述べていることを知ると、その成功者に対するおもねりに憤慨し、1775年2月27日付で伯爵宛に書簡を送りその一節で次の様に述べています。



——閣下、私が貴殿のお部屋でお待ちし、ドアから追い払われて今や7年が過ぎ去りました。この間私は、愚痴をこぼしてもはじまらない幾多の困難をくぐりぬけ、私の仕事を推し進め、ついにかけらの援助も、一言のはげましの言葉も、あるいは好意ある微笑みも受けることなく出版のはこびにまでこぎつけました—— 更に——閣下、水中で生きようとしてもがいている人を平気で眺め、そして、その人が地面にとどいた時に援助するような人は後援者ではありませんね？——と。

さて、このようないきさつで刊行された辞典について Boswell は——英文法と英語史が前置きにある辞書が2巻もののフォリオ判で遂に出版され、世間は何と途方もない著作が一個人の手で完成したものだど驚きのまなざしで見守っていたし、諸外国では、そのような仕事は、あらゆる学会が手がけてはじめて耐えうるものであると考えた——と述べていますが、1776年刊行の抜粋版では英文法のみが本篇の前に付置されています。次に語の定義・説明はどんなものでしょうか。Boswellによると、——彼の定義のいくつかは間違っていると認めねばならない。たとえば、正反対の意味をもつ Windward (風上) と Leeward (風下) が全く同じに定義されている。そのとるに足らない傷について彼は序文で、これだけの膨大な著作のこと、誤りが沢山あるだろうことは気付いているし、その例を指適されても少しもあわてないと述べているが、そのことは辞書を見ればわかる。かつてある婦人が、彼に Pastern (つなぎ：有蹄類のひづめとくるぶしの間) を The knee of an horse (馬の膝) と定義するに至ったわけを尋ねた折、彼女が期待した苦しい弁明を考える代りに、彼はただちに“無学なんです。奥様、全く無学なんです”と答えた。Network (網細工、網織物) の定義は、それ自体わかりやすいことをわかりにくいものとした例として、意地悪くしばしば引用されている。しかし、こういったつまらぬ非難に対する答として彼が自身、序文で提示していること以上の答は不要で、序文には、“説明するには、説明されるべき言葉よりもむつかしくない言葉を使う必要がある。そして、そういう言葉はいつも見付かるものではない。時には易しい言葉がむつかしい言葉に変る場合がある。例えば Burial (埋葬) が Sepulture 又は Interment に、dry (乾いた) が Desiccative に、Dryness が Siccity 又は、Aridity に、Fit (発作) が Paroxysm となる類である。というのは、どんな言葉であれもっとも易しい言葉を更に易しく説明出来ないからである”——と彼の文章を引用しています。Boswell のとりあげた Network という言葉は、“網状のもの又はX状のもの。同じ間隔で交叉個所の間に穴がある”という説明が付されていますが、著者の苦心の程が偲ばれます。抜粋版の序文は二頁にわたって書かれています。初版の序文に書かれた著者の苦衷を示す上述の文章は見当りません。更に Boswell は、——彼は言葉の全般的な定義の下に、彼自身の見解や偏見までも紹介しているのに、一方 Tory (トーリー党=1668年 James 2世を擁護し革命に反対した) Whig (ホイッグ党=17~18世紀に台頭した民権党で、Tory 党と対立し19世紀に今の Liberals (自由党) となった政党) Pension (年金)、Oats (オート麦、燕麦)、Excise (物品税) その他いくつかの言葉は、十分に説明しつくされていないし、きまぐれで滑稽な我儘な説明と認めねばならない”と述べています。ちなみにこれらの言葉を抜粋版で引いてみますと Tory, Whig, は同じ説明が、Pension, Oats, Excise については説明の後半部分が省略されています。Oats を例にとって示しますと次の様になります。

Oats : A grain which in England is generally given to horses, but in Scotland supports the people.  
(燕麦=英国では、一般に馬の飼料だが、スコットランドでは、人間の食料) 1775年初版。

Oats : A grain which in England is generally given to horses. 1776年抜粋版。  
となっていて、後半の部分が削除されています。その他にも“Renegado (変節者)”という言葉に対して、“敵に投降する人、胸くその悪くなる奴奴ということの意味している”と述べた後“時には Gower という”と当時裏切り行為をした Gower 卿の名前を書き込んだのですが、気転のきく印刷屋が、それを削除してしまったと Johnson が話したと Boswell は書き止めています。

このようなユニークな辞典の著者が現代日本で刊行される辞典・辞書、それらは、——数種類の先行辞書を並べてつづり合わせ、辞句の順序や表現をちょっと変えてでっち上げてしまう。語釈については自分の考えよりも前の本の物まねの方が先行しているんです。山田忠雄 京都新聞 81. 8. 17 ——という傾向を持ち合わせているようですが、それを見聞きしたら何とと思うでしょうか。(吉岡 章)

#### 《訂正》

びぶりおてか №29 16頁(8)の標題末尾に浄楽寺写とあるのは誤りで、正しくは浄乗寺写です。お詫びして訂正いたします。

“びぶりおてか” 同志社大学図書館報 №30 1981年10月1日 発行  
発行 同志社大学図書館 京都市上京区今出川通烏丸東入 電話 251-3971  
編集責任者 川上 皓 市 (図書館庶務課長) 印刷 芳文堂印刷所